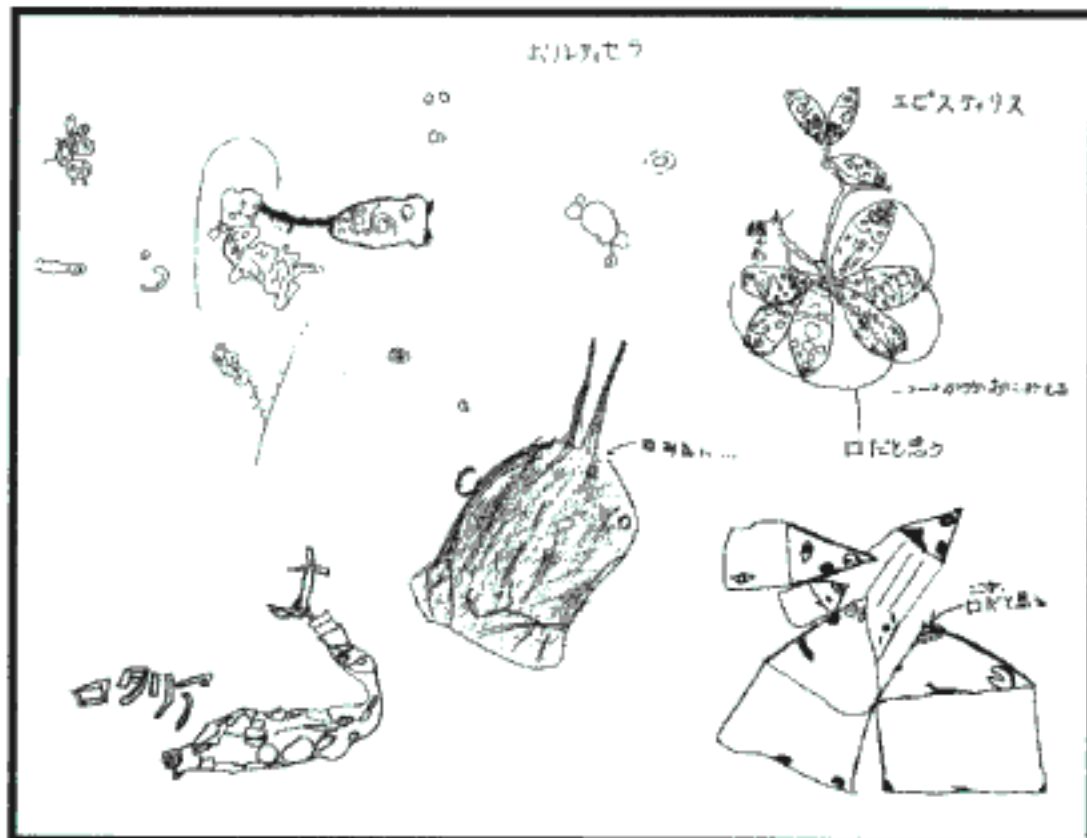


17 仙台市

建築と子供たち ネットワーク仙台

FAX 022-244-0104

住所:宮城県仙台市太白区富沢4-12-22
URL:http://www.tbgu.ac.jp/ept/sc.htm
e-mail:setsuko@ac-ac.co.jp



「南蒲生水のたんけん隊-微生物と友だちになろう」より
子供たちがスケッチしたプランクトンたち

建築やまちなどの 身近な環境をデザインしよう!

- 建築や都市のデザインプロセスをツールにして、学校や地域社会で、タウンウォッチングしたり、まちのデザインをするなどの環境学習に取り組むプログラムの企画と実践をします。
- 具体例:
 - ①東長町小学校「わたしたちの長町中央公園」
 - ②南小泉小学校「南小歴史たんけん・地下鉄東西線プロジェクト」
 - ③堤町まちかど博物館
 - ④ななきた親子探訪
 - ⑤南蒲生水のたんけん隊-微生物と友だちになろう。



代表 渋谷セツコさん



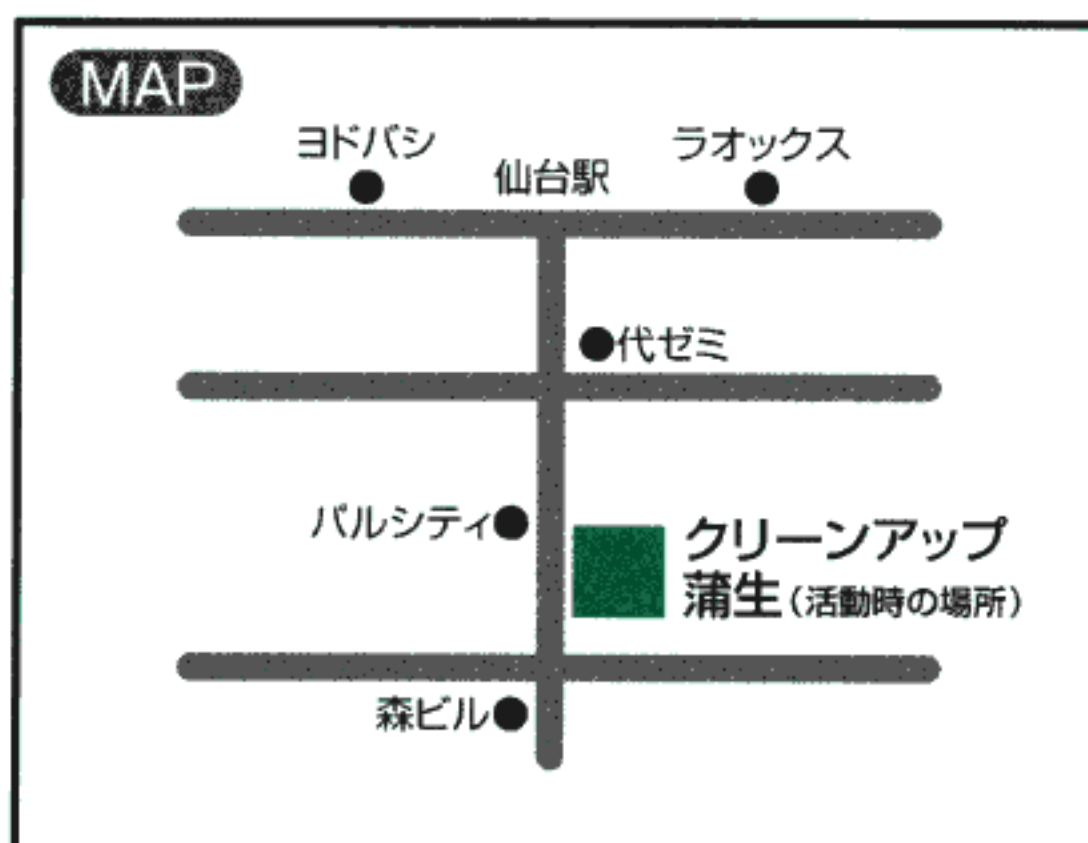
- 受け入れ体制・時間
 - 随時
- 諸経費
 - 実費、プログラムによって要相談

18 仙台市

クリーンアップ 蒲生(がもう)

☎090-7076-0315

住所:宮城県仙台市宮城野区新田1-5-45-204
FAX:022-257-5074
e-mail:miura@zephyr.dti.ne.jp



[交通・アクセス]
◆仙台駅東口より徒歩5分

癒し効果のある 海岸浴がおすすめ。

- 自然体験

なるべく人為的影響の少ない、県内の砂浜(年1回は他県の砂浜)を選んで活動しています。特に南三陸には自然の海岸線がまだ残っていて、森林浴ならぬ“海岸浴”的な「癒し効果」も楽しめます。

 - ①無名の入り江や半島、砂浜での自然観察体験
 - ②まれに美味しい幸も体験!
- 漂着散乱ゴミの調査

海洋を浮遊するプラスチック微細ゴミの数が急増中です。私達の生活に欠かせない素材ですが、海洋性生物の食害や化学物質の溶け出しが懸念されます。その実態を警鐘する為に、2ヶ月に1回位のペースで漂着散乱ゴミを調査しています。



代表 伊藤 実さん

- ③国際的な漂着散乱ゴミの実態調査
- ④仙台市と共催で行っている「アレマキャンペーン」体験
- ⑤①の場所での漂着散乱ゴミの調査活動
- ⑥海辺の学校と合同で実施する環境学習
- ⑦その他



- 受け入れ体制・時間
 - 申込受付時間/8:00~22:00
- 諸経費
 - 1人1回1,000円程度

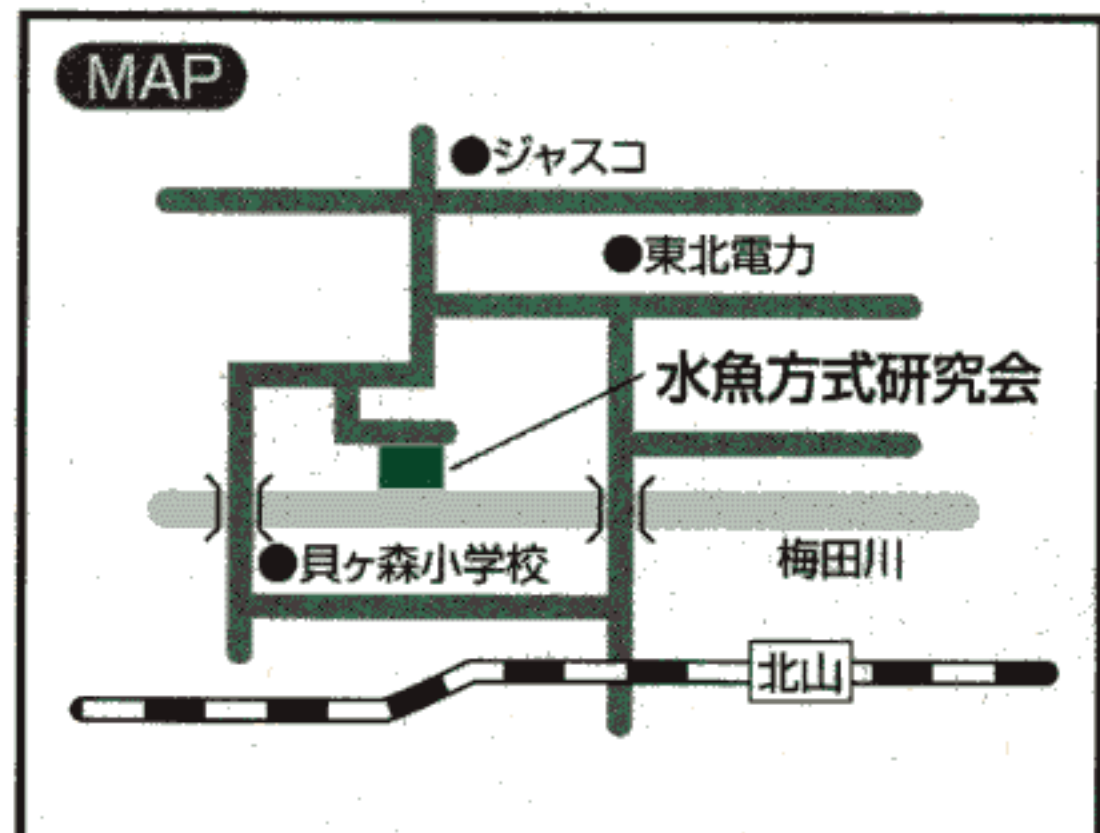
19 仙台市



水魚方式研究会

☎022-279-9104

住所:宮城県仙台市青葉区中山2丁目39-13
FAX:022-279-9104
e-mail:ikujisha@abeam.ocn.ne.jp



■4月から転居の可能性あり。

川との共生をテーマにした創作紙芝居が評判。

- 講座
年長者たちが、子どもの頃に馴染んだ、川の水のきらめきは、今では、昔語りになっています。泳いだり、楽しく遊んだりできる川は、どうすれば、取り戻すことができるのでしょうか。「答えはぜんぶ梅田川」「君こそプリンスーオイカワ物語」などの紙芝居を見ながら、まずは心の中で一歩、川に近づいてみましょう。
- 体験
近くの汚いだけと思っていた川にも、驚くほどたくさんの生物が住んでいます。たも網、三角網、キャッチネットなどを使って捕らえて見てみると…。カゲロウ、トビケラ、トンボなど、昆虫たちも赤ん坊の間は、川底を、よちよち這い回っていたんですね。



代表 西林久美子さん

- 実作
昔の人たちは、川辺のヨシやマコモを、上手に生活に取り入れていました。私たちは、マコモ馬などを作って、遊ぶくらいのことしかできませんが。
- 調理実習
なるべくゴミを出さないよう、なるべく水を汚さないよう、調理して、食べた後また、なるべく水を汚さないよう後かたづけ。それで味は？ 乞うご期待!

- 受け入れ体制・時間
●できれば平日、終日
- 諸経費
●応相談

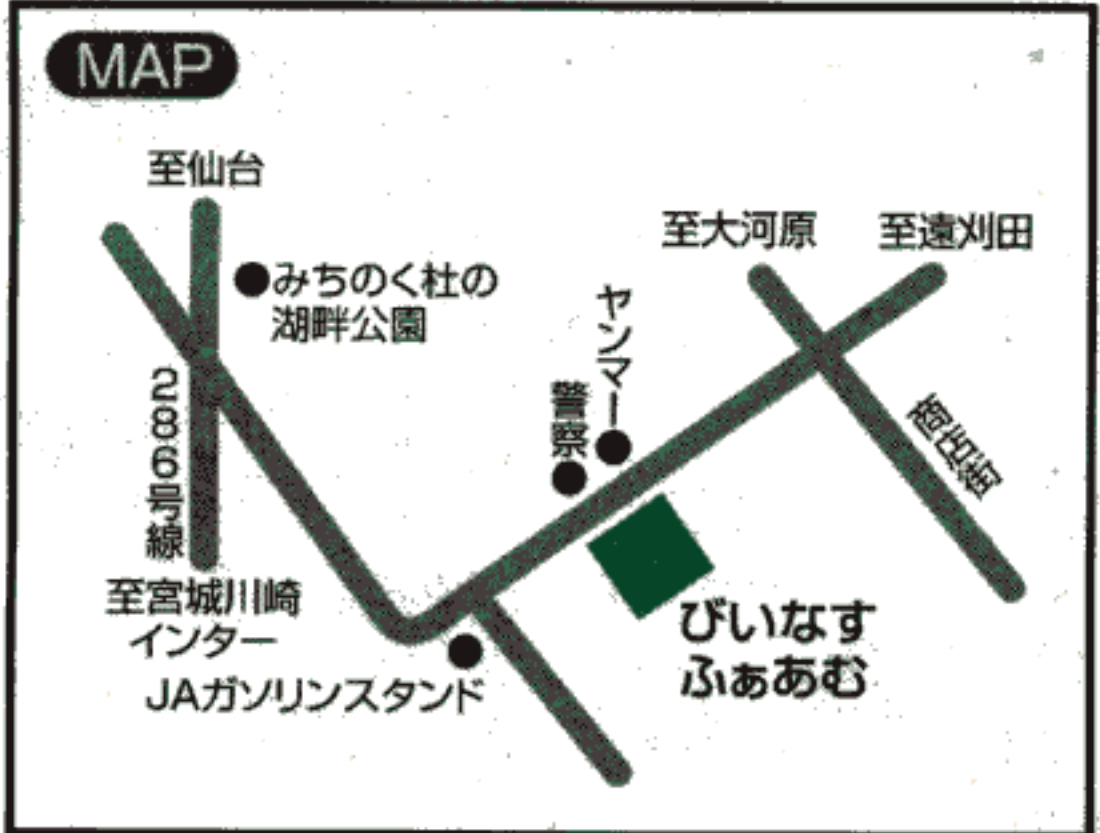


20 川崎町

びいなすふああむ

FAX 0224-84-4911

住所:宮城県柴田郡川崎町大字前川字裏丁34



[交通・アクセス]
◆宮城交通「川崎野上」行きバス、川崎裏丁下車すぐ◆山形自動車道宮城川崎インターから5分◆国道286号、仙台から40分

田舎ぐらしの術をつたえたい。

米、野菜だけでなく、果樹、花、キノコ、ハーブetc.様々な作物を作っている、大規模自給農園といった所です。短期の見学や体験では、野菜類の植付け・管理、キノコの植菌、ウメの収穫・加工、ベリーの摘み取り、生イモからのコンニャク作りなど、農作業や農の暮らし、とりまく自然について学ぶことができます。

長期のものでは、一年間畑で野菜づくりや小麦・ソバなど単一食物を種まき～収穫・加工まで、通いで体験学習したり、住み込みで田舎暮らしや農業を実習したりもできます。

また、月1回、自宅のログハウスで行っている、田舎暮らしを楽しむ催しや百姓同志の交流会に参加することもできます。

私達は、農的な暮らしをする人、田舎を支える人が増えてほしいという思いから、



大森英俊さん、大森玲子さん

こうした活動をしています。観光目的だけでなく、農や自然から謙虚に学ぼうという気持ちの方の受け入れを希望します。子供農園や自給生活学校ができたらという思いもありますので興味のある方、体験学習の相談とあわせて、お問い合わせ下さい。



- 受け入れ体制・時間
●要望に応じて、私達に対応できる範囲ならいつでも。短期の見学・体験～長期住込み実習
- 諸経費
●実費+気持ち(物でも労働でも)